

2020年4月12日
東京聖三教会

イースター、おめでとうございます



日本聖公会東京教区
東京聖三一教会

2020年4月12日

東京聖三教会

イースター、おめでとうございます!

司祭マリア・グレイス笹森田鶴

イースター、おめでとうございます!

今年の大齋節、そしてこの復活日は特別な時となりました。一方で、この困難な時期の中で様々な気づきも与えられています。

例えば、自分の行動の判断基準が、自分の思いや願望よりも他の人にとってどういう影響を及ぼすことになるのかと、普段よりも一層キリスト者として他者への配慮に思いを寄せる挑戦ともなっています。

また世界中で多くの方々が次々と亡くなっていくという心痛いニュースを耳にする毎日の中、一層強く、忍耐をもって祈ることへと招かれていることを感じます。不安と恐れ、痛みと孤独の中にいる方々のために、亡くなられた方々の神様のみ許での平安のために、また勇敢にも医療に従事してくださる方々のために、皆さまが毎日時間を神様におささげして祈ってくださっていることを心強く感じております。神の家族が励まし合えるのも祈りを通じてです。公禱に集まることができないときにも、わたしたちにはキリスト者としてすべきことがまだまだたくさんあることに気づかされています。そして何よりキリストのご受難とご復活に

じっくりと思いを寄せる機会が与えられています。

最初のイースターの出来事の最中、主イエス様の死を嘆き悲しみ、墓に行った女性たちはそこにキリストを見出すことはできませんでした。すでにご復活されたキリストは墓から出て、新しい命として弟子たちに会いに出向いてくださり、弟子たちとともに世界に向かってそのお働きをされようとしていたのです。そこに、墓が象徴する絶望を打ち砕く程の大いなる希望が与えられたのです。

「主イエス・キリストにあって神に生きるすべての人の集まり」が教会だという教えをわたしたちは大切に生きています。ですから集まれないことを悲しみ嘆く事態となっているのは事実です。しかしながら、復活のキリストは、すでに墓から出て、世界各地に散らばるキリストの弟子である皆さんのところへ、今まさに会いに行ってくださっていることもまた事実なのです。教会も sacrament もまだ定義付けられていなかった時代に、キリストのご復活の出来事に遭遇した人びとがいました。同じように、通常の教会でいつも経験している方法ではないかも知れませんが、わたしたちが想像しなかった場所でわたしたちを待っていてくださるご復活のキリストが、確かに皆さんのそばにいらっしゃるのです。そしてわたしたちをそれぞれの場所で励まし、ともに神の子として生きようと導いてくださっているのです。

わたしたちが今ご一緒できないでいる sacrament は、「目に見えない神の恵みの目に見えるしるし」です。この sacrament に与ることが非常に難しい今こそ、きっと神様は別の方法を用いて世界に神の恵みのしるしを現してくださっています。そのひとつとしてわたしたちひとりひとりが用いられるために、墓を打ち砕く希望の主によって、整えられることを祈り求めます。

この困難な状況での復活の祝いの時、世界中のキリスト者がいるありとあらゆるところが教会だと、わたしたちが散らされていることを今は喜びと捉えましょう。そして、互いに励まし合いながら、次に再び集まって礼拝をおさげできるその時まで、わたしたちは希望を持ち続けて過ごしたいと思います。再び礼拝堂でお会いして主を賛美するその時に、ともに集っていることを「なんという恵み、なんという喜び」とご一緒に神に感謝したいと願います。

イースター、おめでとうございます！

キリストは実に復活されました！